

## 「国際交流推進委員会」

### 1. 構成員

#### 1) 委員

委員長：宮本千津子（東京医療保健大学）

委員：池田真理（東京大学大学院）、上野里絵（京都大学大学院）、落合亮太（横浜市立大学）、グレッグ美鈴（神戸市看護大学）、志田京子（大阪府立大学）、寺本千恵（広島大学大学院）、深堀浩樹（慶應義塾大学）、増澤祐子（東京医療保健大学）

#### 2) 協力者

なし

### 2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進
- 2) EAFONS Executive Committee への参加と大会開催支援等を通じた連携の促進
- 3) 看護系大学における国際的な教育・研究活動の推進・支援

### 3. 活動経過

- 1) 今年度の委員会は計5回開催され、委員会主旨にそった活動が実施された。

#### 【第1回委員会】

- ・日時：7月26日（月）メール会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナー開催企画検討  
②EAFONS E-C 報告と第25回大会進捗状況報告  
③第26回 EAFONS 日本大会開催大学公募手順の検討

#### 【第2回委員会】

- ・日時：9月6日（月）14:00～15:30 Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナーテーマと演者およびWEB 環境に関する検討  
②第26回 EAFONS 日本大会開催大学決定報告および委員会との関連の確認  
③EAFONS E-C Chair への池田委員の着任報告

#### 【第3回委員会】

- ・日時：10月25日（月）17:00～18:30 Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナー演者決定と交渉計画検討、実施準備検討

#### 【第4回委員会】

- ・日時：1月24日（月）17:00～18:30 Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナー準備状況と当日の役割確認  
②第25回 EAFONS 大会準備進捗と、JANPU 会員向け周知について報告  
③EAFONS のホームページに関する課題と整備業者への依頼状況

#### 【第5回委員会】

- ・日時：2月28日（月）17:00～18:30 Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナーアンケート結果報告と評価  
②EAFONS 第26回大会に向けた開催大学における準備進捗確認と協働計画  
③次年度課題の検討

## 2) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進

昨年度から継続し、with コロナにおける国際交流の方法を考えるため、特に具体的な活動事例を共有するセミナーを WEB にて開催した。事前申込者は 186 名であり、当日は 112 名が参加した。

- (1) テーマ：「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」
- (2) 日時：2022 年 2 月 19 日（土）13:00～15:30
- (3) 方法：Zoom ウェビナーによる Live 講演会およびパネルディスカッション
- (4) 意図：COVID-19 流行により国際交流活動が影響を受けるなか、オンラインを活用して積極的に国際交流を行っている例がある。そこから with コロナ時代における看護系大学のグローバル化について、会員校とともに考える機会とする。
- (5) 演者および演題：
  - ①横浜市立大学 医学部看護学科 教授 佐藤朝美氏、准教授 落合亮太氏  
コロナ禍における国際交流の実例と今後の展望 ～横浜市立大学の実例～
  - ②静岡県立大学 副学長 渡邊順子氏、看護学部 講師 根岸まゆみ氏  
複数国の大学間でのオンライン国際協働授業 ～静岡県立大学の実例～
- (6) アンケート結果および活動評価：
  - ①参加人数：事前の申し込みが 187 名、当日の参加人数が 112 名
  - ②事後アンケート結果（Google Form によるアンケートへの回答）
    - ・回答者数：82 名
    - ・結果の概要（詳細は「資料」に提示）：
      - ・参加者の職種は各種であり、本テーマへの関心は役割に偏らないものであった。講演については役に立ったと評価され、コロナ禍における国際交流継続の可能性や、その際の具体的な工夫・留意点等が役に立った内容であった。パネルディスカッションについても役に立ったと評価されており、大学間連携、交流方法、参加する学生や教員に必要な準備等についてがその内容であった。自大学における今後の目標や方策としては、大学としての組織的な取り組みや科目単位での導入から教員個人の課題まで各方面から提起がされていた。全体としての意見・感想には、オンラインを用いた仕組みや具体的な工夫について参考になるところが多かったこと、同時に英語力に関する課題への危惧等が提示されていた。また、オンデマンド配信への希望もあり、JANPU として国際交流を推進するための企画を継続していくことへのニーズが高いと考える。

## 3) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Executive Committee への参加と連携促進

昨年度に引き続き EAFONS E-C に参加し連携をはかった。第 24 回大会（4 月 15・16 日@フィリピン）は開催国外務省の支援を受け登録料なしの WEB 開催となり、多くの参加者を得た（1,813 名／30 ヶ国、約 350 演題応募）。これを引き継いで、第 25 回開催国である台湾も WEB 開催（4 月 21・22 日・登録料なし）を予定し、これに対し E-C として企画を提案した。

### 【Executive Committee Meeting への参加】

- ・2021 年 4 月 15 日、7 月 28 日、11 月 22 日に開催され、宮本委員長および池田委員が参加した。
- ・2021～2022 年度の Chair 選挙が行われ池田真理氏が着任することとなった。
- ・EAFONS 定款の改定、第 24 回大会（フィリピン）開催報告、第 25 回大会（台湾）プログラム、第 26 回大会（日本）の開催大学報告、および東アジア地域の看護系大学間協働のための活動方法や新たな会員の受け入れ等、運営課題の検討が行われた。

#### 【第 25 回 EAFONS 開催に関する会員への周知と参加促進】

- ・第 25 回大会の開催と演題募集、登録期間の延長と登録料無料化について、ホームページおよび会員校へのメールにて周知を行った。

#### 【第 26 回大会（日本開催）に向けた準備】

- ・第 26 回 EAFONS 日本大会開催大学の公募を博士課程運営や国際大会開催経験等を条件として行った。その結果、1 校（東京大学：代表・山本則子氏）より応募があり、JANPU 理事および EAFONS E-C Chair からなる検討会での選考を経て、理事会で審議・承認された。

#### 【EAFONS 本体ホームページの整備】

- ・EAFONS のホームページ管理は E-C Chair が行うという慣例にのっとり、Chair に池田真理氏が着任したことに伴い、ホームページ管理を JANPU が担うこととなった。これについて、現在のホームページは EAFONS 本体と大会の内容が混在しており主体が曖昧となっていたため、これを整理した。

### 4. 今後の課題

国際交流推進セミナーは講演およびその後のディスカッションについて参加者の評価が高く、適切であったと考える。次年度以降も引き続き開催することが望まれる。セミナーの内容については当日のみの配信としたが、今後は、アーカイブ化や雑誌への投稿等を行うことでより活用されるようにすることが課題である。加えて、関連内容に関する情報提供へのニーズが高いことから、JANPU の SNS を活用する等をして関心のある教員が情報交換できる場を設けることも検討できると考える。

EAFONS との連携については、EAFONS 代表に池田真理氏が就任したことに伴い、ホームページの整備を行うことができた。第 25 回大会については国・大学単位での企画が提案されていないこともあり、メールおよびホームページによる開催告知にとどまったが、2023 年開催の第 26 回日本大会については、手続きを経て開催大学を決定した。今後は、JANPU および本委員会と開催大学とが共同し、第 26 回大会が有意義なものとなるよう活動を行う予定である。なお、EAFONS 大会は参加国の持ち回りであるため、7 年ごとに日本が開催国となる。第 26 回大会での実績を参考に、開催方法や開催大学の決定、開催費用の予算化や積立等、計画的に取り組めるよう整理を行う必要がある。

### 5. 資料

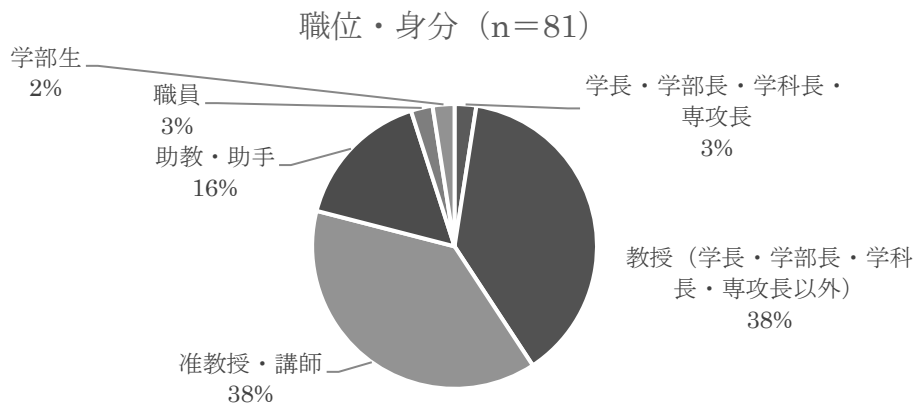
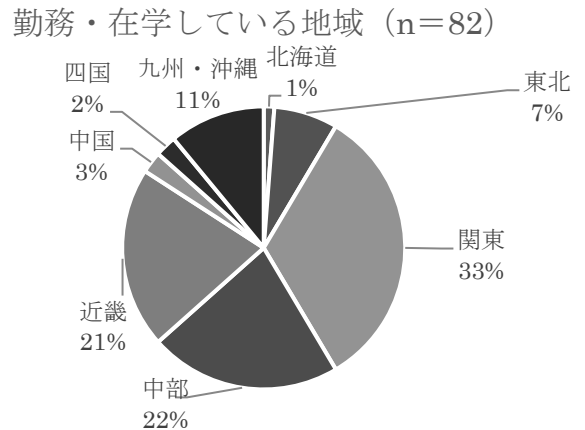
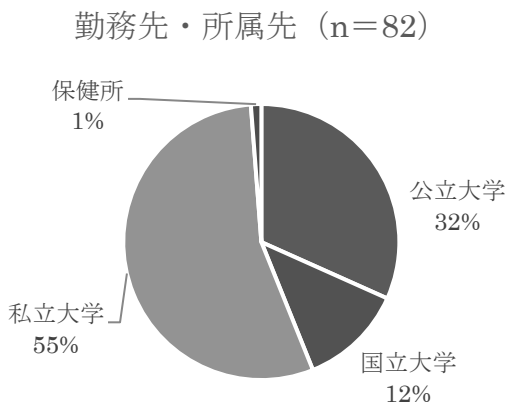
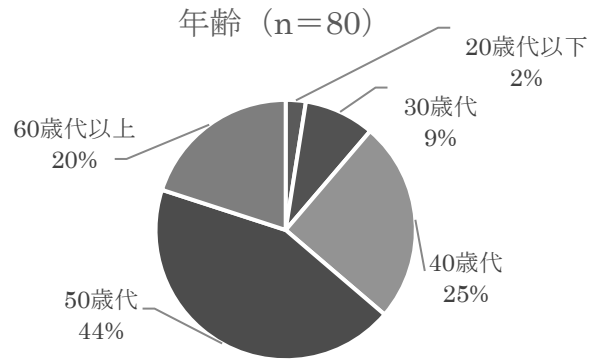
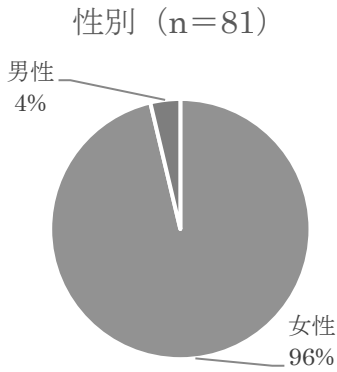
国際交流推進セミナー参加者アンケート結果

国際交流推進委員会企画・主催セミナー

「with コロナにおけるオンライン国際交流～具体的活動事例に焦点を当てて」参加者アンケート結果

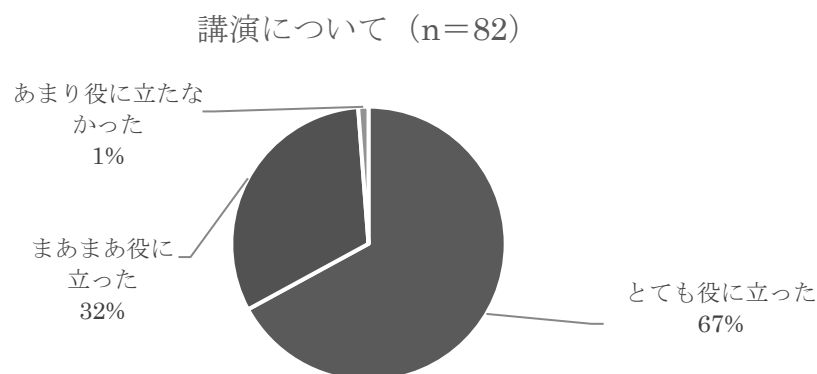
1) 回答者数  
82名の回答を得た。

2) 回答者の特性



3) セミナーの内容に対する評価

①「講演について」



②「講演について」役に立ったと思った事柄 (n=50)

**国際交流がきっかけで多様性を受け入れる看護職の育成**

国際交流をきっかけに、  
外国人を含む多様な人々の看護を担える学生が育っていくのではないかと感じた

**国際交流の可能性**

どのような交流の可能性があるのか、イメージを膨らませることができた。

**大学レベルでの仕組み・取り組みについて**

横浜市立大学の全体プログラムの説明

国際交流センターからのバックアップがあるということ

各大学での国際交流事業の位置づけ

PEセンターの英語教育

横浜市立大学で、TOEFL500点以上を2年生への進学基準とされているということ

年次による具体的な取り組みと英語力をつける取り組み

**コロナ禍での国際交流の継続**

各大学、コロナ禍においてもいかに国際交流を継続させているかについて知ることが出来た

コロナ禍での国際交流に頭を悩ませているのは自分たちだけでないこと

**調整・打ち合わせ・準備などの留意点について**

オンライン打ち合わせ等の留意点

国際交流オンラインでの3つのコツ

学生の教育目的にそった準備等、詳細

交流先のICT環境の確認、事前打ち合わせの時間的ゆとりの取り方など

交流相手国の講師等と調整していく上での留意点について

準備、相手方との調整。

両大学の授業の準備から学生参加を促し、レポート作成までの一連の取り組みについて

準備がいかに大変か、改めて知ることとなった。

**具体的なツール・テクニカルについて**

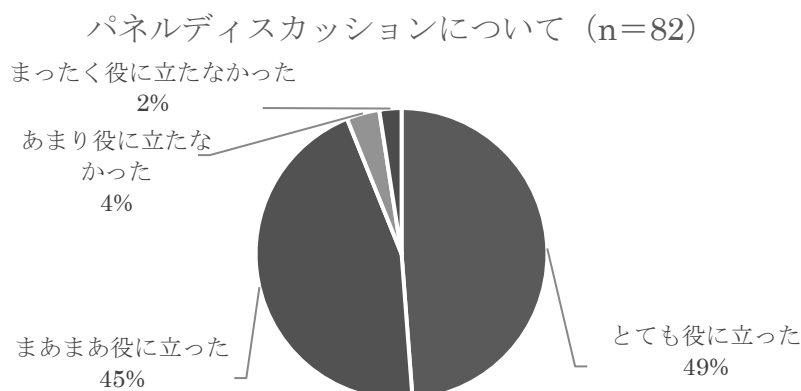
オンラインで国際交流を図る際のツール/ソフト/アプリの活用方法について

(DeepLなど翻訳、校正機能、共同編集、ライブ文字おこし)

オンライン交流のテクニカルなアドバイス

<b>プログラム内容について</b>
プログラムの組み立て方
国際看護の授業の仕方
<b>海外研修（オンライン留学）</b>
海外研修をオンラインに変更する場合の工夫、課題
オンライン留学
<b>他大学との連携</b>
COIL 授業の実践
静岡県立大学のプロジェクトにおける連携
大学間交流の企画運営、準備など
<b>ディスカッション</b>
事例ディスカッション
同時双方向のディスカッションの参加の仕方について
具体的な交流（演習）の進め方が参考になった
<b>学生の参加しやすさを促す工夫（ハードルを下げるかかわり）</b>
横市大の先生方が、様々なツールを活用することを認め、
学生の言語的なハードルを低くし、参加しやすいようにされている
やはり国際的なプログラムに参加するには第一歩をふみだすことが難しいとも思うので、
このような工夫は重要
学生とのかかわり方など
英語力がそれほど高くない学生をどうエンパワメントして、
学習を動機づけるかについての工夫など
語学力に自信のない学生や教員の参加の促し方。
英語への障壁を下げる方法。
<b>自分の所属や教育へ取り入れる検討</b>
このような考え方を、日々の教育活動に活かしていきたい
本学でも取り入れられないか相談しようと思った
<b>資金源について</b>
さくらサイエンスプログラムの内容
予算の確保について

③ 「パネルディスカッションについて」



④ 「パネルディスカッションについて」役に立ったと思った事柄 (n=33)

COIL について

COIL の背景、授業内容

静岡県立大学の COIL という活動は、私自身は初めて知る内容でしたので、とても新鮮でした。

静岡県立大学の COIL 授業の実践例は、初めて知った国際交流事業でした。

複数の大学が連携すること

昨年度の JANPU の同委員会での企画の中で、複数の大学が連携しながら国際交流できると良いということがあがっていましたので、その実践例について学ばせていただく機会となりました。

国内でも 2 つの離れたキャンパスを有している大学も多いので、ICT を活用した交流は国内外を問わず、地理的遠隔地同士の交流を深める機会として有用ということを理解しました。

他大学との演習内容

グループワーク・ディスカッションの可能性

Miro などのソフトの活用で online でのグループワークの可能性なども知りました。

ケースディスカッションの進め方など

学生の語学力やモチベーションについて

語学力についての考え方や学び方について

英語が話せることが重要なのではなく、

自分の意見をなんらかのツールを使用して相手に伝えることが重要という考え方

学生に対するアナウンスと将来像の明確化

学生のモチベーション

学生の英語力を高めることよりも討論できる力を重視していること

学生の動機づけを高めるプログラムの工夫

英語力は問わないが自分の意見を発信する力とコミュニケーション力を高めることが重要であるという点

必ずしも英語力は関係ないという事ですが、

実際はやはり英語力がある程度ないと難しいと思いました。

学生の反応

静岡県立大学の学生の反応

教員について

教員の確保について

教員の国際交流事業参加に向けた働きかけ

国際交流に対する意識

具体的な運営方法や、ご苦労されていることがわかり、悩んでいるのは自分たちだけではないと思った。

国際交流の活動を推進していくにあたり、力をいただきました

調整・準備について

具体的な対象大学との調整

費用・経費について

経費に関する質問に答えていただきありがとうございました。

研修費用を寄付で賄っているというのは、正直すごいと思った。

費用について。

参加者からの質問について

さらに詳しい内容を聞けた。質問が匿名で出来てききやすかった。

多くの質問があつて、視野が広がった。

---

一つの質問に対して各大学の先生の考え方を知れてよかった。

---

回答だけでなく、質問内容も参考になった。

---

質問に回答いただいたことで、より具体的な参加者の状況や内容等が分かった。

---

質問への回答を直接聞いた。

---

色々な質問が出てみんなが何に困っているのか、

---

また自分達と同じことに苦労していることが知ることができた。

---

#### 4) 看護学教育のグローバル化に向けた目標や方策 (n=41)

---

##### 自分自身/教員の語学力・国際交流力について

---

国際学会の発表に挑戦する

---

基盤となる研究活動に加えて、Speaking と Writing を強化する

---

興味のある教員とは SNS やメールを英語でする

---

語学力をあまり気にせずに、教員の海外の学会への参加を促し、1名以上の体験者を実現する

---

根岸先生が楽しんで英語力を維持できるよう、海外ドラマなどを活用しているとのことでしたので、私もやってみる

---

##### オンラインでの授業・講義・演習づくり

---

オンライン看護研修があるので、その内容を作り際の参考にする

---

オンラインでの学生間交流（ネット環境及び機器の整備、操作技術が必要）

---

シラバスの検討（オンライン前提で組み立てる）

---

プログラム作成時にもう少し詳細を詰める

---

落合先生がご教授くださったツールを使ってみる

---

目標の明確化

---

##### オンラインでの国際交流

---

オンラインを使った外国での講義やグループワーク

---

オンライン交流会を実施

---

研修旅行に匹敵するような企画にもチャレンジしよう

---

次年度の海外研修プログラムに今回使えそうな方法を導入していく

---

日本人海外学生合同のインタラクティブなケーススタディ

---

##### グローバル化への教員の認識

---

グローバル化への教員の認識

---

後進に申し送りたい。今後の国際交流の方法の模索。

---

教員全員で、本学における国際化にむけた教育とは何を目標にするのかについて話し合う予定です。

---

##### 学校全体（カリキュラム）・組織・仕組みでの課題・工夫

---

このような活動は学校全体が動かないと難しいので、当校では難しいと感じた。

---

海外研修の単位化に向けて議論をすすめる

---

学生の国際的な視野を育てる視点をカリキュラムに反映する

---

学年別の取り組み

---

国際看護学の授業構成

---

国際看護学を必修科目にし、全学生がいろいろな大学と交流できるようなカリキュラムを構築する。

---

組織管理に問題があることを解決する。

---

組織のサポートが不十分ではなかなかうまく行かないことを再認識しました。

---



組織的に活動するために国際交流委員会の立ち上げをする

後進に申し送りたい。今後の国際交流の方法の模索。

#### これまでの活動の継続・再開

これまでやってきたことを停滞させずに継続する。

コロナ禍で中断している国際交流プログラムをオンラインで再開していく

現在、協定を結んでいる大学との交流を何らかの形で、

できるだけ早く再開できるように情報を収集し、計画を立案してみる

現在、本学が持っている海外研修プログラムの踏襲とブラッシュアップ

現在実施していることの継続

今やっていることが他の大学に比べても優れているという自信がもてた

他の大学も少数の教員でがんばっていらっしゃる事が分かったので、私も細々と COIL を継続する。

提携大学との具体的な国際交流方法について

#### 伝える努力

どんな方法でできるかを相手に提示して、理解を得るようにする。

#### 英語教育について

英語教育の充実

英語教育への応用。

英語担当の教員との連携。国際交流の講義に対する積極的参加

学生と教員の英語討論力を高めること。

英語で考えを伝えるときのストラテジーの練習

大学院は国際語としての英語での講義や学术交流を増やすべきだ。

授業の中で、意識して医療英語を取り入れていくこと。

#### 学生のモチベーションを上げる工夫

学生のモチベーションをあげる、関心を高める、

敷居を低くする、自己の看護観を持つなど工夫していきたい。

学生の意識付け、伝えたい内容を日本語（母語）で考える教育の検討、母語での伝え方

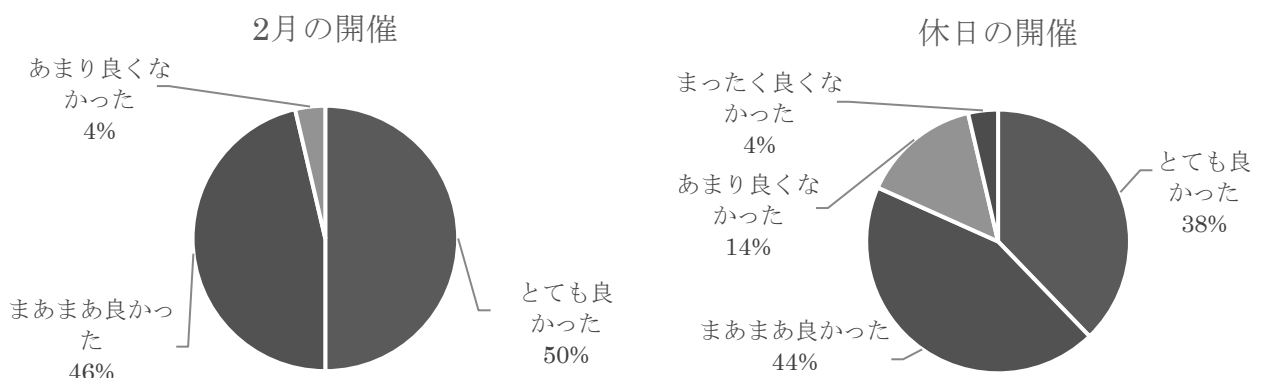
国際交流会の進め方に翻訳等の機能を用いて、

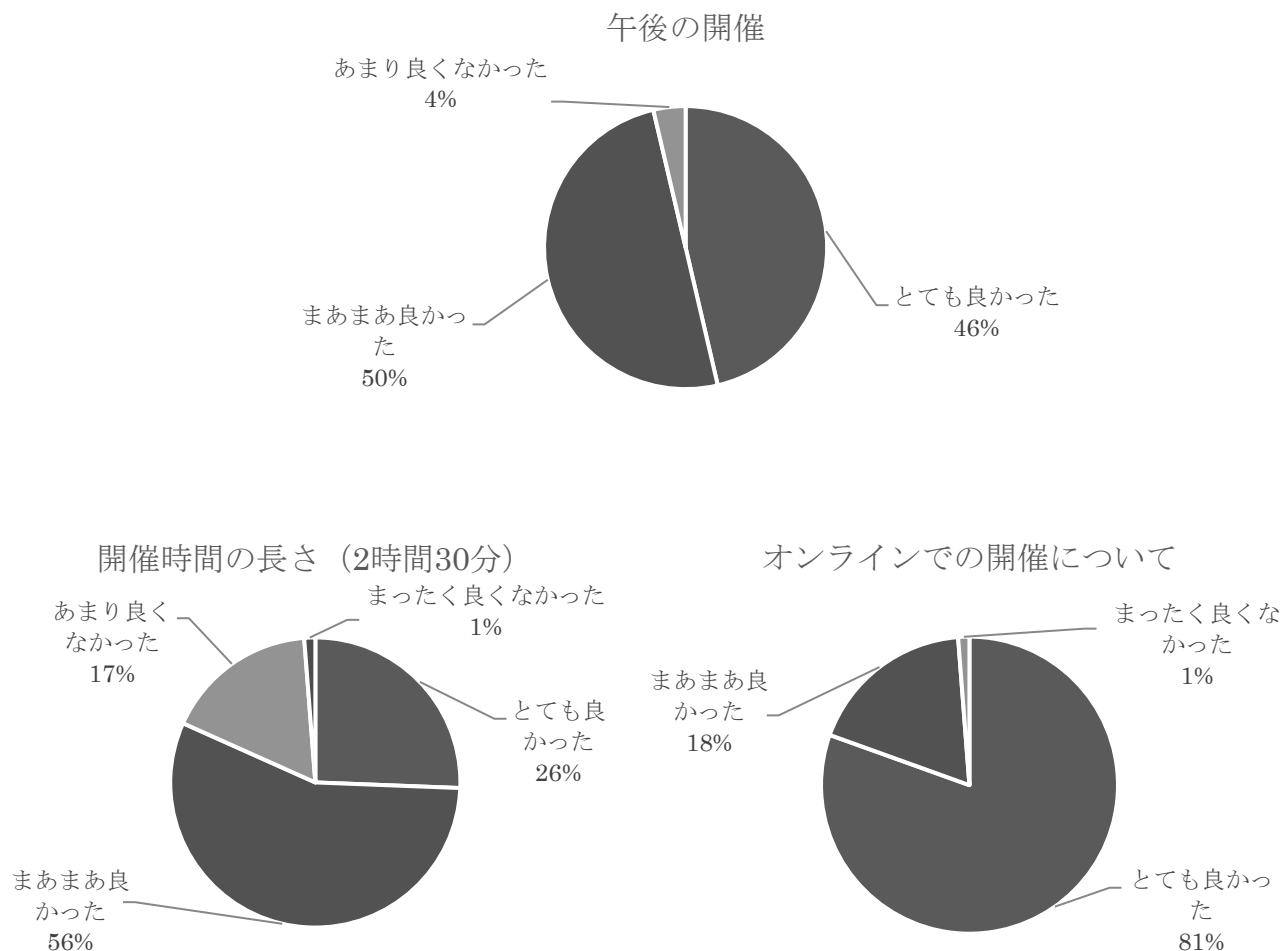
学生に自信を持って参加してもらえるようにしていきたいと思います。

#### 日本在住外国人について

学部教育では、日本国内在住の外国人への看護を想定した教育を拡充することを優先すべきだ。

#### 5) セミナー開催に対する評価 (n=82)





6) 意見や感想 (n=37)

具体的な活動内容の紹介について

コロナ禍でどのように海外と国際交流をして学生に学ぶ場を提供しているのか、とても参考になった。zoomの開催でも十分わかりやすい研修だった。

コロナ禍で国際交流の進め方に悩んでおりますのでオンライン交流のやり方法などとても参考になりました。自大学でできることを検討していきたいと思えます。

コロナ禍における国際の具体的事例を聞くことができた。

海外研修が厳しい中で、どのような工夫がなされているのかを知ることができ、自学でもできそうな点を見つけることができたことはよかった。

数名でも国際交流等に関心ある学生にとって何ができるか、当方にもグローバル委員会といった事務部門がありますので、相談していきたいと思えます。

具体的な実践内容でとても参考になり、すぐに役立つ内容でした。ありがとうございました。

具体的にどのような方法で実施しているかを聞いて参考になりました

具体的に参考になる事例の発表で、大変参考になりました。

具体的活動事例の紹介だったので参考になった。

工夫を取り入れてみたいと思えます。ありがとうございました。

他大学のハワイに実際に学生を連れて行っている所がすごい（今回はオンライン3日間だが）

本日先生方の具体的な方法を教えていただきありがとうございました。

大学のグローバル化が全国で進んでいることを実感しました。

---

### 交流相手国について

---

- ・交流相手が米国や英語圏であるフィリピンなどに偏り過ぎていた。
- 日本に注目しているアジア諸国との交流についてもっと事例を聞きたかった。
- 米国とは医療制度が違い過ぎて、実地研修を行う意義が乏しいと考える。
- 

### 日本人（学生・教員）の英語力について

---

・看護界に限らず、ICTなどの先端分野の研究において日本は大きく立ち遅れているとよく耳にする。

日本人の英語力の低さについて、JANPUはもっと危機感を持つ必要があるのではないかと感じている。

翻訳ソフトなどを使っていて、まともなディスカッションができるとは到底思えない。

学術目的での英語能力を大幅に向上させないと、今後ますます日本が取り残されてしまうと危惧している。

---

まずは、当方の学生の英語への関心と能力の強化が急がれると思いました。

国試の結果は、例年ほぼ100%ではありますが、日々の座学と実習で余裕のある学生がそう多くはないように感じています。

ですが、数名でも国際交流等に関心ある学生にとって何ができるか、当方にもグローバル委員会といった事務部門がありますので、相談していきたいと思います。ありがとうございました。

---

教員の英語力を上げるためには、教員の評価や給料に反映しないと、誰も自分の時間を使って英語力を高めようとは思わないと思います。

---

### 規模の異なる他の大学について

---

学術だけではなく大学で行っている国際活動をしている大学があれば是非聞いてみたい。

大学での国際交流のあり方をお示しいただいて、視野が広がったと思いますが、いずれの大学も国際交流部門があり、支援システムが整っている大学であったので、本学のような小規模の国際交流支援部門がない大学が、どのような取り組みから始めれば良いのか、そのあたりへのヒントがいただけるとありがたいと思いました。

---

### 継続的な国際交流について

---

国際交流については、単発で学べるものもありますが、継続的に取り組むことでみえてくることも数多くあるので、そのような活動もあると良いと思いました。

---

### 学生側の意見について

---

実際の状況がよく分かった。学生側の率直な意見がもう少し知りたかった。

---

### セミナーのテーマ・企画内容について

---

テーマも内容も、講師の人選も、座長等の先生方もすべて素晴らしかったです。

皆様のご尽力に感謝いたします。

引き続き、次年度もこのようなテーマで開催してほしい

大変貴重な内容でした。ありがとうございました。今後も継続していただきたいと思います。

発表くださった先生方に御礼申し上げます。

また一大学から二人の先生という構成で異なる視点で話して下さって、より具体的に内容がわかった気がします。

---

毎年、意義のある研修を開催してくださって感謝しております。

ぜひ定例としてこのまま継続して頂きたいです。

貴重な学びの機会をありがとうございました。

素晴らしい講演ありがとうございました。今後に役立させていただきます。

---

とても参考になりました

---

### セミナーの開催方法・運営について

---

司会進行、パネラーの意見交換など大変スムーズに実施されていて、参加しやすかったです。

資料がいただけるとありがたかったです。

---

---

2 時間半は少し、長く、疲れました。

---

お話が具体的だったので応用していけると思いました。

---

2 月開催については翌年度の計画をたてるには遅すぎるので 12 月ぐらいがよかったです。

---

大変貴重な機会でした。時間が超過してしまったことだけ残念でした。

---

本研修を企画、運営くださったことに感謝いたします。

---

資料提供がなかったですが、内容を考えると難しかったと思います。

---

ライブで参加できて、本当に良かったです。

---

#### ライブの都合がつかないことについて

---

時間を延長していたため最後まで視聴することができませんでした。

---

移動中であり、通信媒体の容量もあり、つながりにくく、ほとんど参加出来なかった為、オンデマンドで見れるようにしてほしいです。

---

出席が途中からになってしまった。録画配信を希望します。

---

入試日と重なってしまい、最初と 2 人目の先生のご講演しかきけませんでした。

---

他の研究会とぶつかっていたため、前半だけ出席させていただきました。

---

出席が途中からになってしまった。録画配信を希望します。

---

#### 7) 大学のグローバル化に向けて、今後開催してほしい企画や企画時期 (n=26)

---

国内大学での共同国際交流プログラムの紹介

---

国際交流活動に活用できる助成金などの情報提供

---

海外の看護系大学の国際交流の取り組み事例の紹介

---

国際交流担当者のネットワーク構築

---

他国との共同研究の実践報告

---

WHO などの国際機関での学生ボランティアの受入れの紹介

---

持続可能な国際交流の方法

---

留学生受け入れの体制づくり

---

オンライン国際交流で活用可能なツールの紹介

---

グローバル人材育成の取り組みについて

---

在日外国人を対象とした課題に関する内容

---

国際看護・国際保健、災害看護・災害保健の教育内容や方法

---

教員の研修

---

国際交流を進める上での事務局との連携などの工夫、等

---